

# 令和 5 年度事業計画書

令和 5 年 4 月 1 日

一般財団法人 日本老人福祉財団

# 事業計画書 目次

1. 令和 5 年度事業計画について.....	1
2. 事業計画書	
(本部).....	3
(施設)	
浜松〈ゆうゆうの里〉.....	6
伊豆高原〈ゆうゆうの里〉.....	7
神戸〈ゆうゆうの里〉.....	8
湯河原〈ゆうゆうの里〉.....	9
大阪〈ゆうゆうの里〉.....	10
佐倉〈ゆうゆうの里〉.....	11
京都〈ゆうゆうの里〉.....	12
3. 令和 5 年度本部及び各施設の予算集計表.....	13

## 1. 令和 5 年度事業計画について

財団創立 50 周年を迎え  
皆様との絆と感謝を胸に、そして未来に進化して行く  
～あなたとともに、夢と希望にチャレンジする高齢者コミュニティ創りへ～

理事長 青木雅人

新型コロナウイルスパンデミック(世界的な大流行)は 3 年が経過し、欧米中はこれまでの感染予防対策にピリオドを打ち、ポストコロナへと舵を切った。日本でも、新型コロナの感染症法上の位置づけを、令和5年5月に季節性インフルエンザなどと同じ「5類」へ移行し、感染予防の対策や社会経済活動の各種規制を見直すこととした。

一方、令和 4 年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵略戦争は長期化しており、甚大な人的犠牲とともに、世界的な経済の減速やインフレの加速を引き起こした。日本では円安が進み、燃料・食料を始め様々な生活用品の物価が高騰し、日常生活に大きな影響を及ぼしている。

また、日本は超高齢社会を迎えた後も、出生率の低下による「少子化」と平均寿命の延伸による「高齢化」は一層加速しており、持続可能な社会へ向けた対策の強化は急務となっている。

このような厳しい社会環境が続く中、財団は有料老人ホームのパイオニアとして、豊かな福祉社会の実現に向けて、中核的な役割を果たしていく。

令和 5 年 12 月、財団は創立 50 周年を迎える。これを節目に、私たち財団は「感謝」と「絆」を胸に、さらなる「進化」を目指して、新たなスタートを切る。

コミュニティは、あらかじめ「用意されている」ものではない。「共に創っていく」ものである。お互いに慈しみ、協力し合う相互扶助のもと、変化する社会のニーズに応えつつ、これまで財団が築き上げてきた高齢者コミュニティのブランドを確固たるものにしていかなければならない。

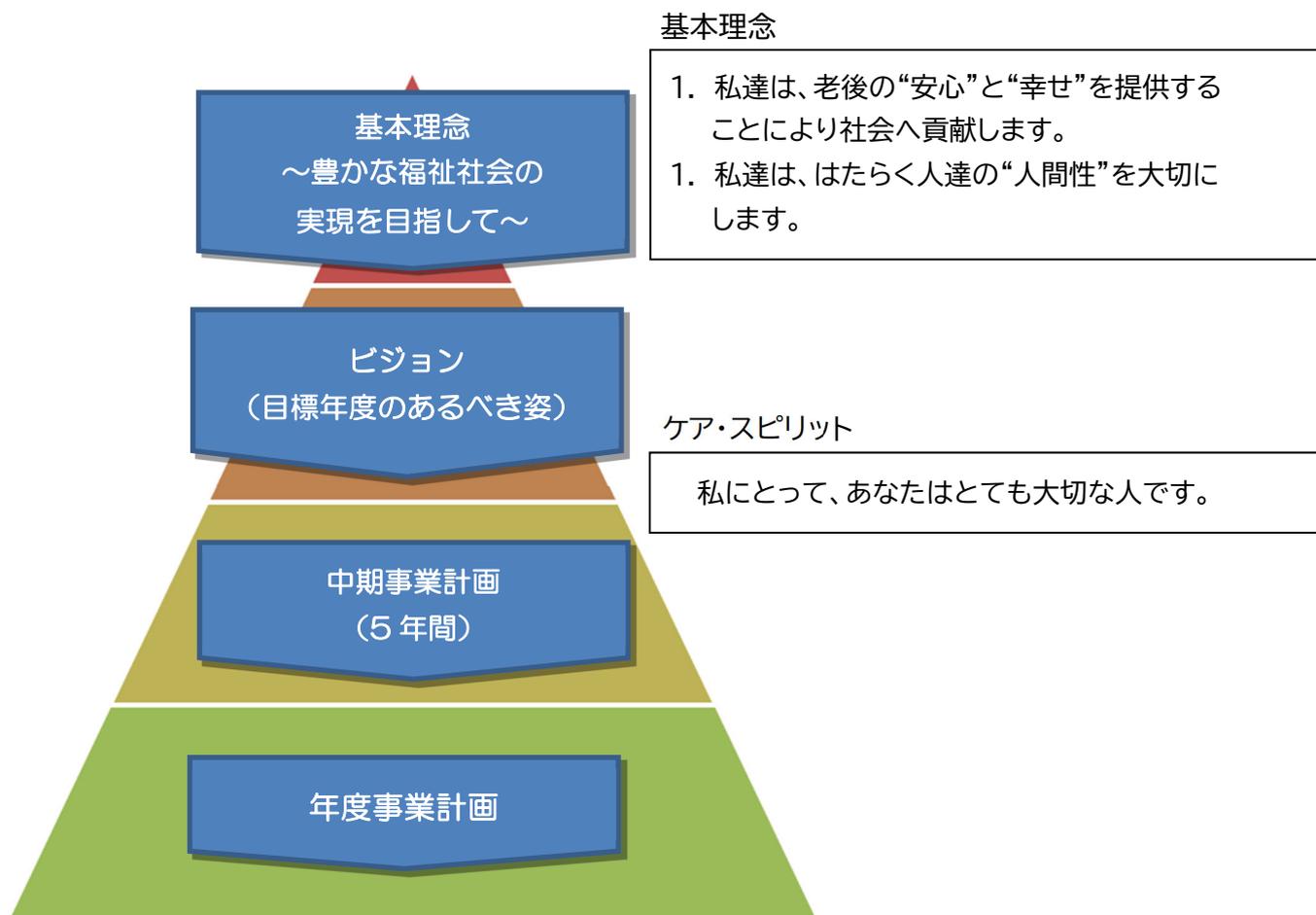
財団サービスの根幹は”人”である。職員ひとりひとりの人間性を大切にして、働きやすい職場環境を整え、〈ゆうゆうの里〉を支えるチーム力を高め、財団の組織強化に努めていく。さらに、地域社会へ福祉ネットワークの輪を広げ、生き生きとしたシニア期づくりへ挑戦する。

本年度も、基本理念とケア・スピリットを羅針盤に、下記事業方針のもと、あなたとともに、夢と希望にチャレンジする高齢者コミュニティ創りに取り組む。

### 【令和 5 年度 日本老人福祉財団 事業方針】

1. 安心と信頼のサービス提供
2. 財務基盤の長期安定
3. 人材の採用・育成と働き甲斐のある職場活性化
4. ガバナンス体制の強化
5. 発展と持続性の確保

◎一般財団法人日本老人福祉財団 基本理念と行動指針



一般財団法人日本老人福祉財団役員及び職員等行動指針

- ① 財団自主行動基準及び行動規範を遵守します。
- ② 倫理やコンプライアンスに照らして問題のある活動には関与しません。
- ③ コンプライアンスの違反、逸脱、過失等は素直に認め、すみやかに是正措置と再発防止措置を講じます。
- ④ 組織における役割、責任、権限並びに情報の伝達経路を明らかにします。
- ⑤ すべての役員及び職員等に対して十分な教育と厳格な評価を継続して行ないます。
- ⑥ コンプライアンス・マニュアル及び諸規程に基づき、すべての組織において毎年度適切な自己監査を行ないます。

## 2. 事業計画書

### 財団 本部

#### 【令和 4 年度の振り返りと令和 5 年度の考え方】

令和 4 年度も、新型コロナウイルスの感染拡大が終息することはなく、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化等による物価の高騰等も加わり、厳しい社会情勢の中での一年であった。このような社会情勢の中、財団が築き上げてきた『「高齢期の豊かな暮らし方」ができるコミュニティ』ブランドを確固たるものとして確立できるよう努めた。

入居者サービスでは、コロナにより長きにわたる自粛生活を余儀なくされた入居者の感染症対策強化と継続に取り組むとともに、入居者のフレイル予防に取り組んだ。

また、財団のサービスの根幹は人材であることを改めて認識、人事制度の改革と、人材確保の強化に取り組み、新たな人事制度を導入した。

設備では、DX を推進し ICT 化やシステム導入として、喫食管理システムについて施設への導入を開始した。

募集では、コロナ禍により日々の生活に不便をお掛けしながらも、入居者の理解と協力もあり、財団全体で入居率 96% を維持できた。財務的には、物価高騰、特に食材費、光熱費の高騰により施設運営は厳しさを増したが、管理費、食費の改定を 4 施設で実施、安定経営ができるよう財務基盤の強化に取り組むことができた。

新規施設の開設については用地取得には至らなかったが、新たな取り組みとして同業他社からの要請を受け、業務支援を実施した。

令和 5 年度は、財団創立 50 周年を迎えることから、入居者や関係各位に感謝するとともに、次の 50 年に向け、入居者や職員との絆を更に深めて、財団を進化させるための基盤づくりの年度とする。

新たな気持ちで高齢者コミュニティ創りを推進すべく、創立 50 周年事業を成功させるとともに、財団の基本理念に立ち返り、コロナ禍で影響を受けた自立者向けサービス、外出や人とのつながりに対する支援の再構築と、介護現場の働きやすさとサービスの質向上のため、喫食管理システムなどの ICT の導入を進める。

これらを着実に実行するため、本部組織機能確立し、人材育成と職場活性化を目指して導入した新人事制度の定着を図る。あわせて、経営基盤の安定のため、入居金収入の安定的確保と入居率 97% の達成、財務面では入居金、管理費、食費の改定に取り組むとともに、コスト削減を実施する。

さらに、財団の発展と継続性確保のため、引き続き 8 番目の施設開設候補地の調査と、同業他社への業務支援、また建て替えについての方針を定め準備を進めていく。

## 【基本方針】

創立50周年の節目の年を迎え、入居者の皆さまに感謝し、絆を深めるとともに、次の50年に向け財団を進化させるため、基本理念に立ち返り、新たな気持ちで高齢者コミュニティ創りを推進する。

## 【各部目標】

### 人事総務部

- ・財団創立50周年事業を成功させ、財団のさらなる発展に貢献する
- ・経営戦略に則した運営ができるように本部組織機構を再編する
- ・新人事制度の定着を図る
- ・採用活動を継続し、階層別研修の充実させる
- ・健康経営に資するよう、福利厚生制度を見直す

### 財務部

- ・社会環境の変化を見極め、入居金、管理費、食費の改定及びコスト管理(削減)を実施し長期安定のための財務基盤を強化する
- ・消費税インボイス制度の開始に向け、制度対応への準備と運用フローの周知徹底を図る
- ・施設経理業務の一部を本部へ集約するシステムを構築する

### 募集広報部

- ・入居率97%を達成する
- ・満室施設は、空室発生後3ヶ月契約目標を達成できるよう支援する
- ・空室の多い施設は、計画的に満室を目指す
- ・働きやすさと作業負担軽減のため、募集顧客管理システムを改善する
- ・スタッフそれぞれの成長を互いに喜び合えるチーム作りにむけ、募集担当者研修を実施する

### サービス支援部

- ・コロナ禍で影響を受けた自立入居者向けサービスを再構築する
- ・介護現場の働きやすさとサービスの質の向上のための業務の見直しを行うとともに、テクノロジーの活用を推進する
- ・財団4本柱(事故ゼロ・相談業務・接遇・研究活動)を深化・推進させる
- ・看取りケアの質を向上させ認知症への対応力を強化する
- ・eラーニングのさらなる活用を進める

#### サービス支援部(設備)

- ・案件毎に修繕計画を整備し、その後、財団全体での優先順位付けを行う。また、大型工の計画策定においては、本部が主軸となって取り組んで行く
- ・コストパフォーマンスが高い修繕固定資産取得を実施する
- ・設備職員のスキル向上に繋がる勉強会を行っていく
- ・設備内部監査を通じて法令順守を徹底し、不具合箇所は迅速に是正する

#### 調査企画室

- ・8 番目の施設開設候補地の情報収集・調査活動を行い、各候補地の検討を進める
- ・建て替えについて方針を定め計画を立てる
- ・財団の培ってきた知見を活かし、同業他社の業務支援を行う
- ・ブランドイメージを活かした広報活動を推進する

#### 情報システム室

- ・快適なシニアライフに寄与するような IoT 機器、予約・管理システム等の IT 先進技術への対応、調査検討、導入を行う
- ・業務自動化、資料の電子化、テレワークシステム等の検討、導入を行う

#### 監査室

- ・コンプライアンス違反の早期発見と未然防止を進める

## 浜松〈ゆうゆうの里〉

### 【令和 4 年度の振り返り、令和 5 年度の考え方】

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症が大きく影響し、入居者・職員に多数の感染者が発生したが、施設一丸となって乗り切ることができた。一年を通じて安心・安全な環境の維持・向上を掲げ、積み重ねてきたことをコロナ禍でも実践することができたことは高評価としたい。ハード面においては、4・5 号館の給湯配管工事他、入居者の生活に直接影響する工事も多かったが、入居者の多大なる協力、施工業者の安全配慮、職員の工夫により無事に工事を終えることができた。

令和 5 年度は、財団が創立 50 周年を迎えることから、浜松施設もあらためて財団の理念を基に、私たちが目指すこと・すべきことを明確にし、職員一人ひとりが主役となって地域 No.1 のホームとなるよう研鑽を重ねていく。

また、これまでも取り組んできた、入居者一人ひとりに最適なサービスを提供することを第一に、地域との連携もより推進しつつ、入居者が「浜松〈ゆうゆうの里〉で生活することの幸せ」、職員が「浜松〈ゆうゆうの里〉で働くことの幸せ」を感じられ、地域にとって必要とされる施設となるよう運営をおこなっていく。

### 【基本方針】

財団ケアスピリット「私にとってあなたはとても大切な人です」を、現場サービスにおいて具現化する。

### 【目標】

#### 1. 安心と信頼のサービス提供

PDCA サイクルを実践し、サービスの充実と質の向上を図る。

#### 2. 財務基盤の長期安定

入居率 95% を目標として、長期的な視点で安定経営を目指す。

#### 3. 人材の採用・育成と働きがいのある職場活性化

職員一人ひとりが働きやすい職場づくりに主体的に関わる風土を構築する。

#### 4. ガバナンス体制の強化

組織を挙げて、コンプライアンス・高齢者虐待防止に取り組む。

#### 5. 発展と持続性の確保

地域貢献活動と地域企業・団体等との連携を計画的に実践・実行する。

### 【指標】

(令和 6 年 3 月末)

契約者数／総戸数	249 戸／261 戸
入居者数	297 名
入居契約率	95%

## 伊豆高原〈ゆうゆうの里〉

### 【令和 4 年度の振り返りと令和 5 年度の方針】

令和 4 年度もコロナ禍で極めて感染力の強いオミクロン株に翻弄された一方で、診療所と一体となって、入居者、職員の感染者を早期に発見することで施設内の感染拡大を最小限に抑えるよう努めた。なお診療所では入居者・職員をはじめ、隣接する特別養護老人ホーム及び地域住民に対しても新型コロナワクチン接種を実施した。また全職員が自主行動基準を遵守して、入居者に適切なサービスを提供できるよう職員研修に注力した。経営基盤を強化するために、管理費、食費の改定を実施するのと同時に、入居募集に尽力し入居契約率の向上を目指した。

令和 5 年度は新型コロナウイルス感染症が終息するまでの間、入居者、職員の健康と安全を守ることに徹するとともに地域への貢献を果たしていく。また「高齢期の豊かな暮らし」を実感できるサービスを実現し、施設コミュニティにおける入居者と職員との「絆」を強化すると並行して、地域コミュニティの輪を拡げたい。引き続き入居募集を促進し、入居契約率のさらなる向上を目指す。

### 【基本方針】

コロナ禍を乗り越え、笑顔で、夢と希望にチャレンジする高齢者コミュニティを創る。

### 【目標】

#### 1. 安心と信頼のサービス提供

コロナ禍の影響を受けた自立入居者向けサービスの再構築および適切で効果的な身体介護の実施のための業務の見直しを図る。

#### 2. 財務基盤の長期安定

全職員『ワンチーム』となり、契約目標 25 戸を達成する。

#### 3. 人材の採用・育成と働き甲斐のある職場活性化

働きやすさとサービスの質の向上のための業務とシステムの見直しを図る。

#### 4. ガバナンス体制の強化

接遇、事故ゼロ、相談業務を通じて、法令違反等の早期発見と対策を打つ。

#### 5. 発展と持続性の確保

コロナ禍で減少した地域との交流を再度活性化する。

### 【指標】

(令和 6 年 3 月末)

契約戸数/総戸数	314 戸/338 戸
入居者数	379 名
入居契約率	93%

## 神戸〈ゆうゆうの里〉

### 【令和 4 年度の振り返りと令和 5 年度の考え方】

令和 4 年度は、3 年にわたるコロナ禍の取り組みで、感染症対策と施設活動両立を、将来に向けた安定を考えて進めた。

財務面では、入居率 98%を達成し、日常生活に密接に関係するエネルギー、食料品等の価格上昇が続く中、食堂部門の黒字の実現と、給湯料金の市場価格変動に合わせて関連する料金請求の見直しを進め、令和 4 年 12 月より改定することができた。施設建物維持管理においては、令和 5 年 1 月着工のケアセンター棟厨房改修工事を計画に沿って進め、喫食システム(顔認証)を導入し、デジタル活用による効率化で、神戸施設の成長促進につなげる取り組みが動き出した。

令和 5 年度は、神戸施設開設 40 周年と、財団創立 50 周年の大きな節目を迎える年となり、将来にわたる施設運営に関して、社会情勢から直面する問題や課題に一つ一つ答えを出していく。また、直面する問題の物価動向を重視しながら入居者の暮らしを守る行動と実績で信頼を得られるように、直面する課題に愚直に向き合い施設運営の体質強化を着実に進め、施設の価値向上および持続可能な施設運営体質強化の取り組みを積極的に進めたい。

### 【基本方針】

未来へあゆみ続ける神戸施設開設 40 周年を共に～笑顔あふれる施設を未来へつなぐコミュニティーを創る～

### 【目標】

#### 1. 安心と信頼のサービス提供

非常災害対応を確実に進めるため感染症対策行動を明確にして、緊急時の対応と役割を果たす体制を整える。

入居者および職員の満足度向上に向けた相談援助等の点検を行い維持向上させる。

#### 2. 財務基盤の長期安定

各部門の健全性を保つため、収支・損益の黒字達成を目指す。

#### 3. 人材の採用・育成と働き甲斐のある職場活性化

人材の「確保」と「定着」を両立し働きやすい職場環境を整える。

#### 4. ガバナンス体制の強化

組織運営における内部監査等の改善項目に着実に取り組む。

#### 5. 発展と持続性の確保

職場環境改善や提供サービスの質を高め持続性の確保と ICT 活用や健康経営を進める。

### 【指標】

(令和 6 年 3 月末)

契約戸数/総戸数	366 戸/374 戸
入居者数	437 名
入居契約率	98%

## 湯河原〈ゆうゆうの里〉

### 【令和 4 年度の振り返りと令和 5 年度の方針】

令和 4 年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症による感染防止対策に追われたが、同一敷地内診療所とも連携し、ワクチン接種や陽性者の対応を即座に行い、施設内感染防止に繋がった。募集活動では新型コロナウイルス感染症の状況により集客状況に波はあったが、来客数は増加した。事故ゼロ活動では、再発防止策は根本的な解決を考える芽が育まれた。近年、新卒採用が続き、職員の若返りと活性化が進んだ。また、職員主体の研修を行ったことで全体の向上心につながった。設備面では、6 号館の外壁塗装と 2 号館廊下の補修工事を行った。

令和 5 年度は、基本的な目標は前年度を継承し、財団設立 50 周年、湯河原施設の開設 40 周年にあたり着実に準備計画を立て入居者に喜んでもらいたい。前年度に引き続き、入居者相談業務等で小さな不満のうちに解決していく事を徹底し、事故ゼロ活動では再発防止策を考える力を向上させたい。設備面ではケアセンターの外壁塗装を行う予定である。

### 【基本方針】

財団創立 50 周年、湯河原ゆうゆうの里開設 40 周年を迎え、皆様に楽しんでもらえる1年とし、職員と共に思い出に残る企画を実行する。そして職員 1 人 1 人の考える力を育てていく。

### 【目標】

#### 1. 安心と信頼のサービス提供

財団の 4 本柱の中でも今年度も、相談業務において相談を聞き解決していく力をつけ、事故ゼロ対策において根本的な対策を考える視野を養う。

#### 2. 財務基盤の長期安定

検討者のニーズをつかみ、入居に至る課題を解決し入居契約率 97%を達成する。

#### 3. 人材の採用・育成と働き甲斐のある職場活性化

職員配置を熟考し、無理のない日常業務の中から業務改善を考える力を培う。また、その達成感の中から働き甲斐を見つける。

#### 4. ガバナンス体制の強化

コンプライアンス委員会の活動を強化し、不適切ケアの撲滅を計る。

#### 5. 発展と持続性の確保

施設開設 40 周年記念行事を開催し、検討者・地域に向けて配信していく。

### 【指標】

(令和 6 年 3 月末)

契約戸数/総戸数	271 戸/279 戸
入居者数	341 名
入居契約率	97%

## 大阪〈ゆうゆうの里〉

### 【令和 4 年度の振り返りと令和 5 年度の考え方】

令和 4 年度は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響が大きく入居者・職員の感染者が多く発生したが、感染者発生時の実践経験を積み重ねた結果、即応力が格段に上昇した。感染防止対策を施しながら行事イベントを開催し、休止していたサークルも再開できた。財務面では、ウクライナ侵攻に起因する物流の停滞、原油高や円安の影響を受けた物価高騰により、食事代を令和 4 年 10 月から 10% 値上げ改定した。また、診療所の 2 人夜勤体制を 1 人夜勤体制へ移行するなど、財務体質の改善にむけて踏み出せた。下期に空室発生が多くあったため、再満室を目指したい。

令和 5 年度は、今後も物価高騰が続くことが見込まれる状況から財務体質を一段と強化していきたい。そのためにまず再満室化の達成を目指すとともに、引き続きコスト削減に取り組んでいく。サービス面では、入居者と職員の安全・安心の確保のため、感染防止対策に努めつつ、これまでも取り組んできたサービス品質の向上にむけて、職員一丸となって活動を推進していく。また働き甲斐のある職場活性化を目指し、IoT システム導入等による効率化にも取り組んでいく。

### 【基本方針】

財団創立 50 周年を迎え皆さまとの“絆”と“感謝”を胸に、安定的な収支・損益の実現とサービス品質の向上にチャレンジする

### 【目標】

#### 1. 安心と信頼のサービス提供

サービス 4 本柱の活動の内、特に相談活動に力を注ぎ相談者が満足されるまで対応する。

#### 2. 財務基盤の長期安定

契約目標 16 戸を達成する。大阪施設の収支、損益の健全化にむけて取り組む。

#### 3. 人材の採用・育成と働き甲斐のある職場活性化

管理職による面談や研究活動、研修参加の推進、IoT 導入により職場活性化を推進する。

#### 4. ガバナンス体制の強化

不適切ケアやハラスメントのない施設になるため、コンプライアンス遵守を強化する。

#### 5. 発展と持続性の確保

財団創立 50 周年を祝い、施設内でもイベントを企画してお祝いの機運を高めていく。

### 【指標】

(令和 6 年 3 月末)

契約戸数/総戸数	165 戸/170 戸
入居者数	179 名
入居契約率	97%

## 佐倉〈ゆうゆうの里〉

### 【令和4年度の振り返りと令和5年度の考え方】

令和4年度、新型コロナウイルスの感染については、予防活動継続の結果、感染拡大はなかった。入居契約率も、空室発生後速やかに契約に繋ぎ、年間通して高い入居率を維持できた。人材育成については、十分な人材が確保でき、本部のeラーニングと施設内研修、OJTの組み合わせにより順調に育成することができた。

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染について、基本的にこれまで同様の対応を継続し、感染予防に努めていく。入居契約に関しては、適切な住み替えをすることによって安心の介護を提供し、ケアサービス課、生活サービス課、募集担当の連携を図っていく。人材育成については、数年先を見据えた人員体制を整備する。とくに業務集中時間の契約職員投入、60歳以上の経験者の活用、未来につながる「介護サービスのデジタル化」を推進する。財団の4本柱「事故ゼロ、相談、接遇、研究」活動では、特に事故防止策の立案スキル向上、相談対応の技術向上を図る。接遇マナーは、好事例収集の継続と、そこから導き出した「さすが」と言われるような対応の共有により、好事例のさらなる増加を目指す。研究活動は、個人のやりがいとチームや組織が目指す理想像がマッチするように取り組んでいく。

### 【基本方針】

ご入居者も職員も夢と希望にチャレンジできる高齢者コミュニティを目指し、次世代に向けて計画的且つ具体的に進化して行く「財団のフラッグシップ」施設になる。

### 【目標】

#### 1. 安心と信頼のサービス提供

財団の取り組み4本柱を進化させる。～佐倉施設の優位性を打ち出した取り組み展開～

#### 2. 財務基盤の長期安定

収支・損益の黒字を達成する。

#### 3. 人材の採用・育成と働き甲斐のある職場活性化

働きやすさ向上のためデジタル化を推進し、適切で効果的な業務体制にする。

#### 4. ガバナンス体制の強化

コンプライアンス会議を活用して、未整備のルールを明確化する。

#### 5. 発展と持続性の確保

本部と連携し「元気付ホーム」に必要な自立者向けサービスマネジメントを構築する。

### 【指標】

(令和6年3月末)

契約戸数/総戸数	370戸/379戸
入居者数	446名
入居契約率	98%

## 京都〈ゆうゆうの里〉

### 【令和 4 年度の振り返りと令和 5 年度の考え方】

令和 4 年度は、10 月 1 日に開設 25 周年を迎えることが出来た。新型コロナウイルスに影響を受けつつも、募集活動は堅調であり、10 月 31 日には、入居者 500 名となった。

食材費や人件費の高騰が続く中、入居者の理解、協力をえて令和 4 年 7 月より食費を 9.8% 引き上げることができた。一方、職員については、新卒採用を進めるとともに、育成を丁寧に進め定着を図ることができた。

令和 5 年度は、財団創立 50 周年を迎えることとなる。設立当初の精神に立ち返り施設運営をしてゆく。引き続き物価上昇、特に電気代の上昇が顕著であり、節電対策等のコスト削減対策の継続と合わせて、施設運営の安定に向けた対策を実施・検討していく。サービス面では、令和 2 年度から続くコロナ過で入居者向け介護サービス説明会の開催や、自立された入居者と要支援・要介護の方との交流が減少しており、本年度は、介護サービス説明会等を再開し、介護サービスの情報を発信する機会を増やしていく。

### 【基本方針】

皆様との絆と感動を胸に、夢と希望にチャレンジする高齢者コミュニティ創りを共に進める。入居者への情報発信により更なる安心に繋げる。

### 【目標】

#### 1. 安心と信頼のサービス提供

入居者へ介護サービスをわかりやすく説明する。また事故発生時の対策立案に再注力する。

#### 2. 財務基盤の長期安定

満室を維持し、収支・損益予算を達成し、物価上昇を鑑みて管理費改定を検討する。

#### 3. 人材の採用・育成と働き甲斐のある職場活性化

採用活動を継続して人材確保に努め、職員育成のシステム作りを進める。

#### 4. ガバナンス体制の強化

労務管理および法令順守を継続しコンプライアンスの基礎を整える。

#### 5. 発展と持続性の確保

財団創立 50 周年を迎え創立当初の精神に立ち返り、高齢者コミュニティとしての里を再確認する。

### 【指標】

(令和 6 年 3 月末)

契約戸数/総戸数	405 戸/412 戸
入居者数	498 名
入居契約率	98%

### 3. 令和5年度本部及び各施設の予算集計表

#### 令和5年度本部及び各施設の予算集計表

(単位：百万円 消費税抜)

	年度合計	本部	施設計	浜松	伊豆高原	神戸	湯河原	大阪	佐倉	京都	内部取引消去
入居金収益	3,861		3,861	394	474	616	562	345	683	787	
管理費収益	1,720		1,720	192	225	261	242	139	301	360	
食堂収益	931		941	127	114	166	119	71	185	159	△ 10
診療収益	468		468	0	104	73	55	56	58	122	
介護保険収益	1,672		1,672	209	227	283	172	169	319	293	
その他収益	250		251	27	35	39	34	28	46	42	△ 1
本部収益	64	321	0								△ 257
募集受託収益	0	31	0								△ 31
施設より受取利息	0	27	0								△ 27
収益合計	8,966	379	8,913	949	1,179	1,438	1,184	808	1,592	1,763	△ 326
人件費	4,348	275	4,083	451	592	659	514	446	693	728	△ 10
施設諸経費	3,652		3,909	456	531	633	474	309	695	811	△ 257
修繕費	526		526	37	61	70	111	43	74	130	
本部諸経費	166	167	0								△ 1
募集費	151	31	151	19	30	23	22	12	24	21	△ 31
支払利息	27	27	0								
本部へ支払利息	0		27	4						23	△ 27
費用合計	8,870	500	8,696	967	1,214	1,385	1,121	810	1,486	1,713	△ 326
税引前正味財産増減額	96	△ 121	217	△ 18	△ 35	53	63	△ 2	106	50	0
法人税等	1	1	0								
税引後正味財産増減額	95	△ 122	217	△ 18	△ 35	53	63	△ 2	106	50	0